

作品募集

「合同読書会」山口の高校で10年

「合同読書会」山口の高校で10年

その娘の物語だ。
いかにく差し出せるのでは。」な
トーブルにはぐシトボトの音
で、様々が意見が交わされた。

野田小野陽山山口三山読書会に開かれた昨夏

著者

鷺田清一さん



家を大坂で「哲學カフエ」といって
 茶を飲んだり思つてゐた。この
 讀書會と哲學家は「語り合
 へ」といふ点でかなり共通する
 話）と書いてたタナローグ（対
 談）で演出家の平田オリサさんが、
 わした・きよかず 1949
 年、京都府生まれ。京都大学文学部
 卒。臨床心理学・倫理学専攻。桑原
 武夫学友會では投資多数。現在
 大阪大総長。

へなさんですね。
大阪でコミコケーションで
ナツシゲの世界から抜かれ
る人間、違いが見えど楽にな
るんです。(写真・吉永考宏)

◇参加者の声

■松田浩美さん（厚狭高2年）「ほかの人の意見を聞くことで、自分の意見が変わっていった。改めて本を読んだ時、別の読み方ができることに気づいた。他人の気持ちを知ることとは大事。自分勝手な人間になりにくくないから」

■縄田藍さん（サビエル高3年）「みんなの意見を聞くことで、自分の心がはぐれていくような感覚があった。自分自身への理解が深まった」

■中島慶子さん（サビエル高3年）「臓器移植のように深刻テーマについて若いうちから考えを深めていくと、いざという時に冷静な判断ができそうに気がする」

■迫田祐希さん（大学生）「読書会は、自分の内面をさらけだして『楽しかった』と喜ぶ愛人の集まり。でも、『ユケる』『やべい』しか言えず、何も感ない人人生より、感情の引き出しを増やして他人を傷つけないでいられる人生を送りたい」

■上田なつ子さん（大学生）「今年も広島から参加する予定。4回目だが、ふだん読まないような本にも出会えて、自分の世界を広げることができ」

といふ時に冷静な判断ができ
 どのような気持ちがある」

■追田祐希さん（大学生）
 「読書会は、自分の内面をさら
 けだして『集まっちゃ』と
 喜ぶ愛人の楽しさ。でも、『ウケる』『イチャイチャ』しか言
 えす何も感じない人生より、
 感情の引き出しを埋やして他
 人を傷つけないでいられる人
 生を傷つきたい」

■上田なつのさん（大学生）
 「今年も広島から参加する予
 定。4回目だが、ふだん読ま
 ないような本にも出会えて、
 自分の世界を広げることがで
 きる」

0年かゝる回実施した。

また『解憂』、石田衣良『夕日』

読書会の成果は、
に記録係において
子にまとめている



「参加してね」

「越く道」などが選ばれた。議院の手がかりとなるキローと憲法委員が用いる事。昨夏の読書会で「藤野先生」に加えて「娘の道路」「親の愛持ち」の「愛持ち」など、共通の話題で盛り上がった。



2010年は国民統書年